

【目次】

1. 友愛労働歴史館がコミケ90に出店します、8月14日・東京ビッグサイト！
2. 上條末夫氏を招き第10回政治・社会運動史研究会を開く、7月15日！
3. 連載「日本労働会館物語」第60回—総同盟の論客・齋藤健—！

1. 友愛労働歴史館がコミケ90に出店します、8月14日！



「コミックマーケット90」(略称：コミケ90)は8月12日(金)～14日(日)の三日間、有明・東京国際展示場(東京ビッグサイト)で開催されますが、このコミケ90に友愛労働歴史館が出店いたします。出店日は8月14日(日)10:00～16:00で、場所は東京ビッグサイト・東地区“ペ”ブロック—32bです(写真は東京ビッグサイト東展示場)。

当日、約13300サークルが出店予定で、当歴史館の出店スペースは机半分の広さのため、非常に分かりにくいと思います。ご来店される方は、ご注意ください。友愛労働歴史館はコミケ90で、①ポストカード(5枚セット)、②三色ボールペン3本セット(同盟、民社党、ユニテリアン教会・惟一館の各標語入りボールペン)、③友愛会創立100周年記念切手(2012年制作。80円切手10枚セット)、④DVD「友愛会から連合へ」(2012年制作)などを販売する予定です。

<交通案内> ①ゆりかもめ(新橋駅⇒国際展示場正門駅)、②東京臨海高速鉄道りんかい線(大井町駅⇒国際展示場駅)、③路線バス(東16:東京駅八重洲口⇒豊洲駅⇒東京ビッグサイト。都05:東京駅丸の内南口⇒東京ビッグサイト)。

2. 上條末夫氏を招き第10回政治・社会運動史研究会を開く、7月15日！

友愛労働歴史館は7月15日(金)午後、第10回政治・社会運動史研究会を開催しました。同会は、友愛労働歴史館の調査・研究活動の一環として設置したもので、「日本の民主的社会主義政党、並びにそれと関連する社会運動史の調査・研究」が目的です。



第10回研究会は元駒澤大学教授で、政策研究フォーラム事務局長などを歴任した上條末夫氏を報告者に同日15:00～17:00の間、当歴史館研修室において共通テーマ「民社党時代を語る」で開催いたしました。上條末夫氏からは学者、研究者の立場で民社党や民社研(現政策研究フォーラム)との関連、中村菊男氏(政治学者、慶大教授)との関係などを語っていただきました。

研究会では司会者から予め提出されていた質問項目に基づき上條末夫氏が1時間余に亘って報告を行い、その後に質疑・意見交換を行いました(詳細は略)。

上條末夫氏は、1933(昭和8)年生まれ。法政大学卒業後、東京政治研究所を経て駒澤大学法学部講師、助教授を経て1981年に同教授就任。2000年に尚美学園大学総合政策学部教授、学部長になり、2006年に退職されています。この間、政策研究フォーラムの事務局長、副理事長、茅ヶ崎市情報公開・個人情報保護審査会会長などを務めています。

3. 連載「日本労働会館物語」第60回—総同盟の論客・齋藤健一—！

今回の「日本労働会館物語」は戦前の総同盟の論客で、労働組合論や労働運動について健筆をふるった齋藤健一です。友愛労働歴史館が現在、開催中の企画展「総同盟結成から70年—いま労働組合主義について考える—」（2016.06.06~2016.12.22）で取り上げている一人が、齋藤健一です。



齋藤健一（1899~1936）は1899（明治32）年4月29日、長野県西筑摩郡で生まれ、1936（昭和11）年1月24日に病のため亡くなっています。齋藤は高等小学校卒業後、上京。1920（大正9）年、横浜ドックの職工となります。翌1921年の横浜ドック争議で活躍し、解雇されます。齋藤はこの争議で関東同盟会会長・松岡駒吉の知遇を得て、労働運動に本格的に取り組んでいくことになります。この年（大正10年）は、友愛会が日本労働総同盟（総同盟）へと改称した年であり、また、日本労働運動史上最大の争議と言われる神戸の川崎・三菱両造船所争議が勃発した年としても記憶されています。

齋藤健一は1923（大正12）、新潟鉄工争議を指導し、逮捕されます。その後、関東同盟会に入り、この頃、組織内で激しくなっていた左右の対立では、松岡グループの若手として活躍します。松岡駒吉は1925（大正14年）、共産党組織（後の評議会）を除名しますが、この総同盟第一次分裂で松岡を支えたのが松岡派と呼ばれた若手グループで齋藤健一他、井堀繁雄、熊本虎三、小泉七造、徳永正報、土井直作、原虎一、堀越梅男、三木治朗、望月源次らがいました。

1926（大正15）年、齋藤健一は関東同盟会主事となり、労働組合主義・労働運動に関する多くの論文・評論を発表し、総同盟を代表する論客となります。齋藤は労働組合の経済行動（雇用条件の維持改善運動）と政治行動（資本主義制度の改革運動）の峻別を訴え、共産党の影響を受けて政治革命に血道を上げていた当時の一部労働組合を、自主性を失った御用組合と厳しく批判しています。

齋藤の主な論文・評論は、1926年：「空想的総連合を排す」、1927年：「我国労働組合と団体協約権」・「岡谷に於ける労働争議の総決算」・「産業平和と我国労働組合運動」、1928年：「野田労働争議と其教訓」、1929年：「理解されて居らぬ労働組合の目的」・「政治行動と経済行動の混同」・「商業労働者と労働組合」・「先ず団体協約」・「被除名派共産党的正体を暴露す」、1930年：「無産政党と労働組合との関係」・「左翼、右翼及中間派—鐘紡争議—」・「労働組合の本壘に還れ—主力を経済行動に」、1932年：「健全なる組合主義の徹底に進む」などです。また、1930年から総同盟機関誌『労働』に、13回に亘り、労働講座を連載しています。

齋藤や松岡が総同盟の現実主義、漸進主義の上に打ち立てた「健全なる労働組合主義」は、「人間の尊厳と進歩発達」という友愛会以来の信条に、「産業人としての労働者」論をプラスしたものです。それは労働組合主義（経済至上主義）が持つ狭さや、労働者階級論（労働者個人の人格よりも、労働者階級意識を優先する全体主義論）の限界を超えて、時代を突き抜ける普遍性を持っているのです。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F TEL050-3473-5325

Eメール yuairodokishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairodokishikan.com>

権一館から122年、友愛会から104年